

## CAPD排液中の蛋白および糖について

山田 勝身<sup>1)</sup>・小川 豊子<sup>1)</sup>・星野 敬子<sup>1)</sup>  
池之上 まつい<sup>1)</sup>・早川 しげみ<sup>1)</sup>・五十嵐 照江<sup>1)</sup>  
関川 弘<sup>2)</sup>・小林 和夫<sup>3)</sup>

### はじめに

現在、当院におけるCAPDは、外来患者7例および入院患者1例の計8例に行っている。今回、CAPD排液中の蛋白および糖の量について検討し、興味ある結果を得たので報告する。

### I 症例および方法

症例は8例で男性3名、女性5名である。基礎疾患は、慢性腎炎5例、ループス腎炎、腎硬化

症、糖尿病性腎症1例ずつとなっている。

職業は、無職2名となっているが、症例M.Nは最近まで家政婦をしていた。他は表1のごとくである。

透析液はトラペノール社製、1.5%ダイアニール1,500mlと2,000ml、J.M.S社製1,500ml液を使用している。

症例S.Tは1,500ml液から途中で2,000液に変更した。透析液中に糖が含まれていて、ダイアニール1,500mlは22.5g、2,000mlは30g J.M.S 1,500mlは24g ずつ含まれている。

CAPDのBag交換は原則として1日4回で、排液中の蛋白および糖の量は、測定しえた4例の入院中の結果である。

### II 成績

排液中の蛋白は図1のようであり、症例T.YはCAPD導入から2ヶ月後の2月13日の排液中の蛋白は5.9gで、1週間後の2月19日は7.2gと増加している。

また1日の変化では、朝の排液中にいずれも3g以上の蛋白がみられ、その後は1g前後であった。症例K.TはCAPD導入約10ヶ月後の4月25日の排液中の蛋白は、8.2gであり、2週間後の5月9日は9.5gと増加しており、朝の排液中には4g以上の蛋白が認められた。症例Y.Sは導入1週間後の1月16日の排液中の蛋白は1.7gと比較的少なく、約3週間後の2月4日は5.5g/

表1 当院におけるCAPD症例

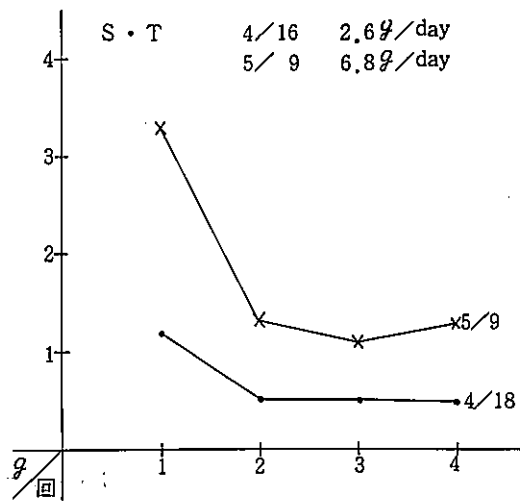
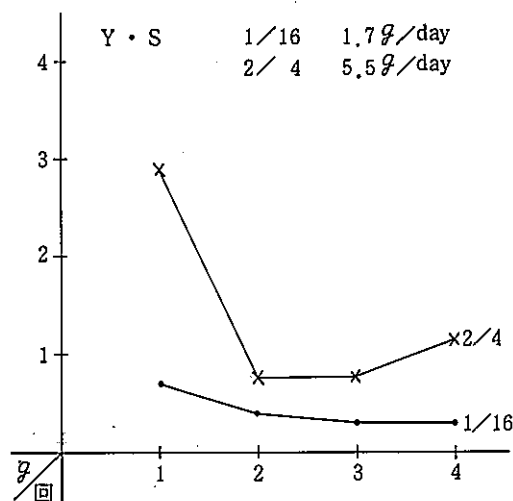
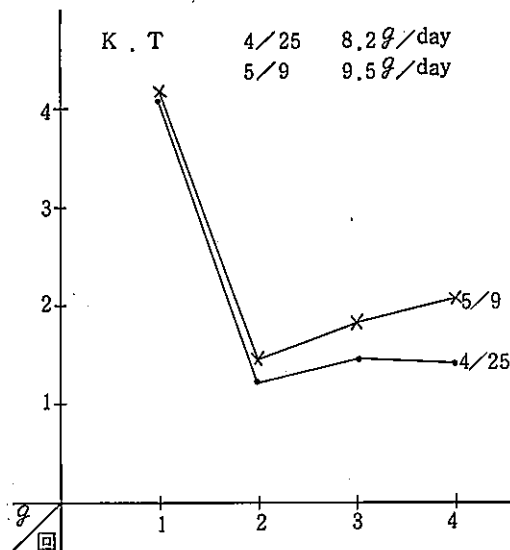
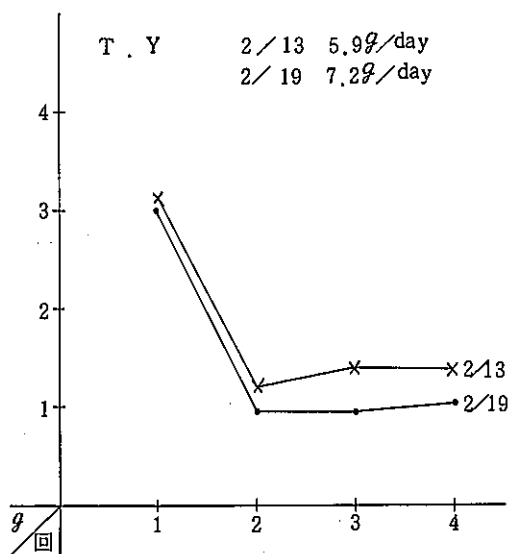
症例	年齢	性	基礎疾患	CAPD 導入年月日	職業	透析液
T.Y	29	女	ループス腎炎	59.12.14	事務員	1.5%D 1,500ml
K.T	61	男	左腎癌摘出 右腎硬化症	59.7.4	無職	1.5%D 2,000ml
Y.S	33	女	慢性腎炎	60.1.11	主婦	1.5%D 1,500ml
S.T	46	男	慢性腎炎	60.4.17	会社員	1.5%D 1,500ml 5月4日より 1.5%D 2,000ml
Y.Y	36	女	慢性腎炎	60.4.10	会社員	1.5%D 1,500ml
M.N	36	女	慢性腎炎	58.9.14	美容師	J 1,500ml
H.S	20	男	慢性腎炎	59.1.30	学生	1.5%D 2,000ml
M.N	63	女	糖尿病性腎症	58.6.1	無職	J 1,500ml

D:ダイアニール J:JMS360A液

<sup>1)</sup>長岡中央総合病院透析室看護婦および看護士

<sup>2)</sup>同透析技師 <sup>3)</sup>同内科

図1 排液中の蛋白量

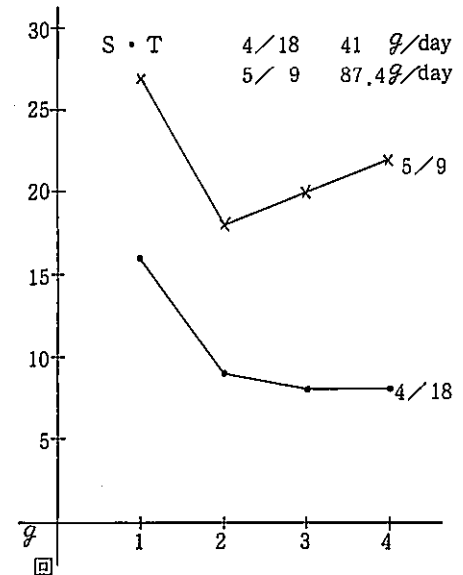
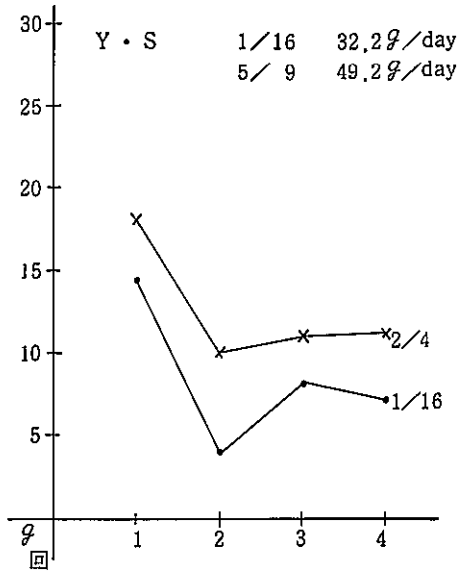
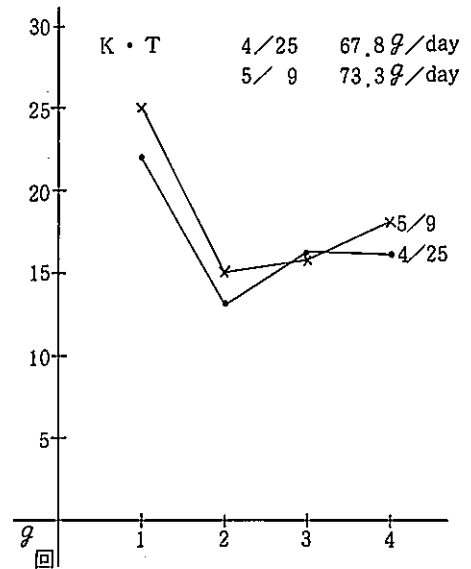
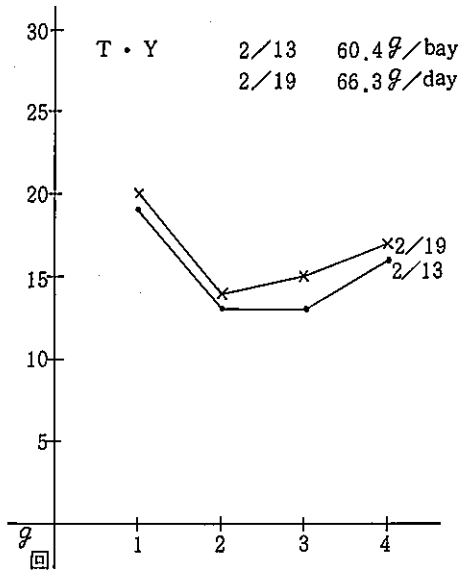


day と著明に増加していた。時に朝の排液中の蛋白は 0.7g/回から 2.8g と著明に増加がみられた。

症例 S. T は導入直後の排液中蛋白は、2.6g であったが、2,000 ml 液を使用後から排液中の蛋白は一層著明に増加し、5月9日は 6.8g であった。朝の排液も 1.2g から 3.3g と増加していた。

一方、糖の吸収量をみると、図2のように症例 T. Y は2月13日の吸収量は 60.4g となり、2月19日は 66.3g が吸収されている。症例 K. T は初めから 2,000 ml 液を使用しているが、4月25日は 67.8g、5月9日は 73.3g の糖が吸収され、吸収量は増えていた。症例 Y. S は1月16日の吸収量は 32.2g で、2月4日の吸収量は 49.2g と増えて

図2 糖の吸収量



いた。症例S・Tは1,500ml液を使用中の4月18日は41gの糖が吸収されたが、2,000ml液使用後の5月9日は87.4gと大量の糖が吸収されていた。また1日の変化量を見ると、いずれも腹腔内貯留時間の最も長い1回目に排液された糖の吸収量は最大であり、さらに導入時より、日に日に糖吸収量は増加していた。

一方、BUNは図3のようにCAPD導入1カ月後には全例80mg/dl以下となっている。

また図4のように血清クレアチニンも導入1カ月で8mg/dl以下と改善している。

しかし図5のように血清総蛋白は導入1カ月後は全例低下し、回復するまで6カ月以上を要するようである。

図3 Bu-N の推移

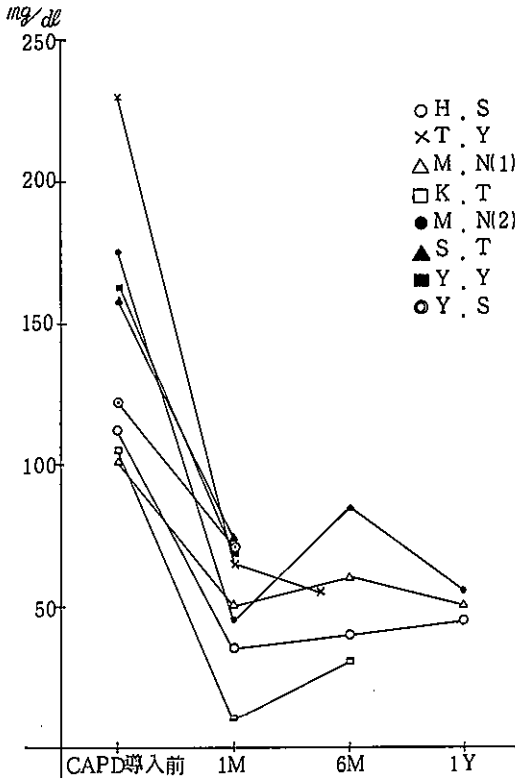


図4 血清クレアチニンの推移

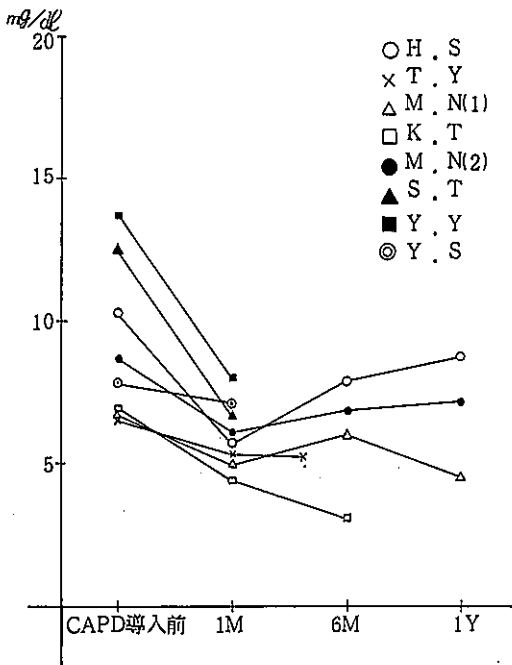


図5 血清総蛋白の推移

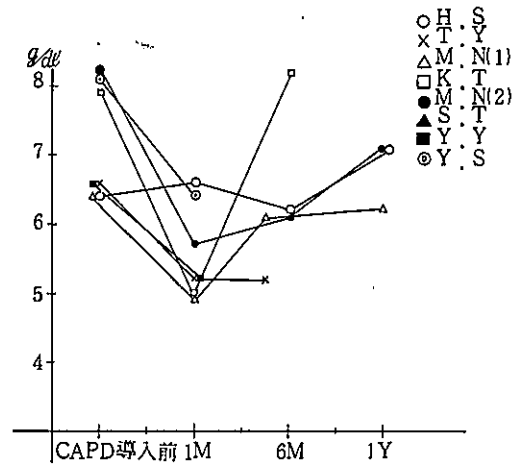
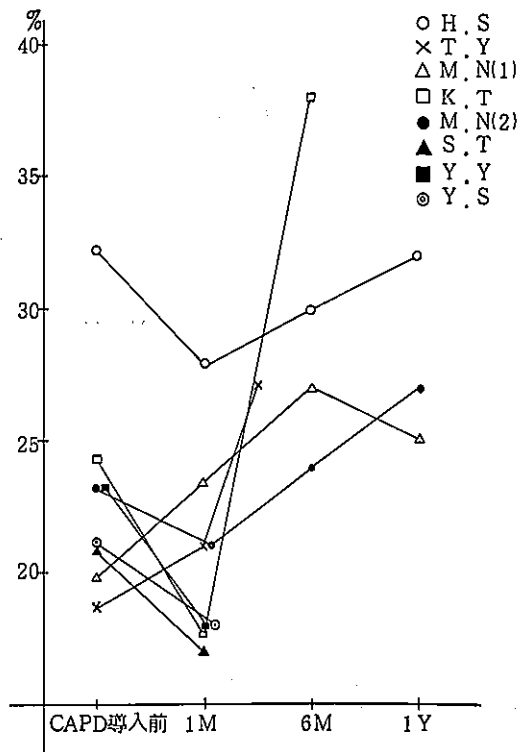


図6 ヘマトクリットの推移



また図6のようにヘマトクリットは導入1カ月後は減少する例が多くみられるが、その後は比較

